今週（7月11日から7月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの進捗に目処が付いた先からの調整のビッドが増加したため、日を追うごとにレートは上昇していった。当座預金残高が概ね290兆円台後半から300兆円台前半程度で推移する中、無担保コールO/N物は、変動が大きい1週間となった。週初は▲0.06～▲0.04%の出会いが中心となり、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.05%台半ばからスタートしたが、その後は積み最終日が近づくにつれて調達サイドの参加者が増加したため、週半ばから後半に掛けては▲0.06～▲0.02%の出会いが中心となり、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.03%台まで上昇した。取引残高も膨らみ、無担保コールの市場残高は4兆円台後半から6兆円台前半での推移となった。ターム物では、証券業態のロール案件での出会いが中心となった他、1W～2W物で▲0.04～▲0.03%の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、14日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額4,040億円（期落ち額2,830億円）の札割れとなった。12日に実施された米ドル資金供給オペは応札額1億8,000万ドルと前回対比で応札額が減少した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は▲0.075～▲0.045%程度の水準で推移した。11日から13日のS/Nは▲0.075～▲0.06%の出会い。14日のS/N(7/19-7/20)では短国3Mの発行要因から▲0.05%近辺までレートを切り上げた。15日のS/N(7/20-7/21)は短国1Yの発行日にあたるものの、大きくレートが緩むには至らず、前日から横ばいの▲0.05%中心の出会いとなった。

個別のSC銘柄では5Y128、10Y336～343、20Y155～157、30Y48～50、40Y9などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られている。

●短国市場

今週の短国市場は、週を通じて閑散であった。海外からの買いや担保需要等もあって、積極的な売りは出なかった一方で、一時期のような買入オペへの売却を意図した動きも見られず、特に週前半はほとんど出会いが無い状況が続いていた。

14日に実施された3M物の入札では、玉確保の動きから、WI取引で▲0.325～▲0.31%と引き続き強めのレートで出会いが見られたものの、レート水準が低下し過ぎていることもあって、入札ではやや流れ気味となり、按分レート▲0.2533%、平均レート▲0.2962%、按分比率9.25%という結果となった。入札後は▲0.289%で少額の出会いが見られた程度であった。15日には1Y物の入札が実施された。WI取引で▲0.36%の出会いが小額見られる中、結果は、按分レート▲0.3289%、平均レート▲0.3587%、按分比率58.8039%で、概ね事前予想通りの結果となった。入札後は19日にオファーされると予想される短国買入オペを睨んでか、▲0.36%の出会いが見られた後、▲0.50%程度まで買い進まれる動きが見られた。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の償還総額4,000億円程度に対し、発行総額は7,000億円程度で、電機、機械、石油、小売、建設、不動産等の業態からまとまった発行案件が見られた。発行レートは、引き続きa-1格銘柄で概ね0%近辺で推移した。先週のCP等買入オペはややレートが上昇したものの、発行残高が14兆円程度で伸び悩んでいることや、投資家のキャッシュ潰しのニーズが根強いこともあり、一部の個別銘柄を除けば、発行レートは低位安定の状況であった。

CP等買入オペは15日に、事前の予定額から変わらず、3,500億円で通知された。応札可能銘柄が前回よりも少なかったためか、平均・按分落札レート共に▲0.001%と前回（平均落札レート0.000%、按分落札レート▲0.001%）より僅かに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/11 (月)	15,708.82	△ 0.280	100.72	△ 0.053	△ 0.075	2,988,700
7/12 (火)	16,095.65	△ 0.285	103.00	△ 0.050	△ 0.074	3,025,100
7/13 (水)	16,231.43	△ 0.285	104.30	△ 0.044	△ 0.057	3,010,900
7/14 (木)	16,385.89	△ 0.265	104.15	△ 0.038	△ 0.061	3,004,200
7/15 (金)	16,497.85	△ 0.235	105.65	△ 0.034	△ 0.053	3,003,900

来週（7月18日から7月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/18 (月)	海の日				
7/19 (火)					6月の米住宅着工件数 6月の英消費者物価指数
7/20 (水)		20Y 11,000億円 7/22発行	交付税借入 10,500億円 7/28借入		
7/21 (木)		TB3M 44,000億円 7/25発行			ECB定例理事会(金融政策発表) 6月の米中古住宅販売
7/22 (金)		流動性供給 5,000億円 7/26発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/18 (月)	海の日								
7/19 (火)	700	▲ 30,300	▲ 29,600	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 2,800 ▲ 300 3,400	4,000 600	4,900	▲ 24,700	TB3M発行▲44000償還40700 5Y発行▲24000
7/20 (水)	1,000	▲ 20,000	▲ 19,000	国債買入		8,900	8,900	▲ 10,100	TB1Y発行▲25000償還7500 エネルギー対策借入▲6000期日5000
7/21 (木)	▲ 2,000	▲ 2,000	▲ 4,000	CP買入		3,500	3,500	▲ 500	
7/22 (金)	▲ 2,000	▲ 11,000	▲ 13,000	被災地支援	▲ 1,100		▲ 1,100	▲ 14,100	20Y発行▲12000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 2,300	▲ 63,300	▲ 65,600	—	▲ 800	17,000	16,200	▲ 49,400	

7/19は日銀予想、7/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、19日にTB3M発行超過・5Y発行、20日にTB1Y発行超過、22日に20Y発行などがあり、資金需給上の不足日が続く見込みとなっている。無担保コールO/N加重平均レートは横ばい圏での推移が予想される。

短国市場は21日に3M物の入札が予定されている。また、19日と22日に短国買入オペのオファーが予想される。今月はオペ金額の増加が見込まれており、需給面では堅調地合いが続くと考えられるものの、入札がやや流れ気味となった3Mゾーン等で調整の動きが見られるか、注目される。

CP市場は特にイベントが無く、落ち着いた取引が予想される。21日は五、十日発行に当たるため、発行量の動向が注目される。

主要なイベントとしては21日のECB定例理事会が挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入